

() 『中東衛星放送年表』 (1991年 2003年)

前坂俊之(静岡県立大学国際関係学部教授)

- 1991年 1月 湾岸戦争が始まる
4月 湾岸戦争の停戦発効
ピーター・アーネット記者のバクダッドでの活躍で CNN が一躍、世界で最も 影響力のあるメディアの地位を獲得。
CNN を見るためパラボラアンテナが普及、衛星放送時代に弾み
- 1991年 MBC(サウジアラビア資本)、ロンドンから中東向け商業衛星放送を開始、
自由な編成と豊かな娯楽番組、幅広いニュースで中東視聴者の人気に。
- 1992年 EDTV(DubaiTV = 国営・地上波)開局(?)
- 1994年 Orbit(衛星波・サウジアラビア資本)開局
「アブダビ・テレビ」(地上波・総合チャンネル・アブダビ政府・所有)開局
- 1995年 ART(衛星波・サウジアラビア資本)、イタリアから放送。
- 1996年 OrbitとイギリスBBCの合併で新しいアラビア語放送局の立ち上げの計画が編集権めぐって対立して挫折
6月 カタールで政変、ハマド首長が政権奪取
カタールが検閲制度を廃止
- 1996年 LBC(レバノン、衛星波・民放)開局
7月 イギリスBBCがアラビア語放送を中止
11月 「アルジャジーラ」が放送開始。アラビア語初のニュース専門チャンネルで1日6時間を放送。検閲のない独立のニュースチャンネルに
- 1997年 11月 アルジャジーラ、1日18時間に拡大
1999年 3月 カタール・情報省を廃止
1999年 2月 アルジャジーラが24時間放送を始める
アルジャジーラ、カブールに支局開設

- 2000年1月 アブダビ・テレビ、衛星チャンネルを併設したのを機会に大きく組織
替えをしてニュースの時間と内容を充実させた
- 2001年1月 ドバイ・メディア・シティーが開設
MBC 本部をロンドンからドバイ・メディア・シティーに移す
- 9月11日 アメリカで同時多発テロ発生
- 9月16日 アルジャジーラがビンラデンのメッセージ(fax)放送
- 9月24日 アルジャジーラがビンラデンのアピールを放送
- 10月3日 パウエル米国務長官、ハマド首長に「アルジャジーラの報道に
影響を働かせるよう」に要求、ハマド首長は拒否
- 10月7日 アメリカ、アフガニスタンに軍事攻撃
アルジャジーラ、ビンラデンのメッセージ(事前収録)を放送
この前後、アルジャジーラは数々の独占映像を世界に
- 10月9日 アルジャジーラ、アルカイダ・スポークスマンのテープを放送
- 2002年12月 カタール、アメリカと軍事同盟協定を締結
- 2003年2月 「アルアラビア」放送開始(12時間)
設立の理念として地域の安定と民主化をあげている。
実態は『モット穏健なニュース局を』¹ というサウジアラビアやク
ウェートの要求。
- 8月 アルアラビア、24時間放送に拡大
- 3月20日 イラク戦争始まる
- 3月23日 アルジャジーラ、米兵捕虜の映像(イラク国営放送)を公開
- 3月31日 米 NBC テレビ、ピーター・アーネット記者を解雇(イラク国営テレ
ビで英を批判したとして)
- 4月8日 アルジャジーラとアブダビテレビのバグダッド支局やパレスチナホ
テルにミサイル攻撃、アルジャジーラの記者1人、ロイター通信と
スペイン民放テレビ局のカメラマン各1人が死亡
- 4月9日 バグダッドが陥落
- 5月1日 プッシュ大統領、「戦闘終結宣言」
- 8月19日 バグダッドの国連現地本部で爆弾テロ事件発生

()イラク戦争開始後に同国で起きた報道関係者の主な殉職の事例は次の通り。

3月22日	北部でオーストラリアのカメラマンが攻撃され死亡。南部バスラ近郊で英テレビ記者が戦闘に巻き込まれ死亡、カメラマンら2人行方不明に
4月2日	北部で英BBCの契約カメラマンが地雷を踏んで死亡
4月7日	ドイツ人とスペイン人の従軍記者計2人がイラクのミサイル攻撃で死亡
4月8日	「アルジャジーラ」のバグダッド支局、各報道機関の拠点、パレスチナホテルが砲撃され、ロイター通信カメラマンら計3人死亡
7月5日	バグダッドで英ジャーナリストが銃撃で死亡
8月17日	バグダッド郊外でロイター通信カメラマンが米軍に撃たれた。

()アルジャジーラ、アルアラビア、アブダビTVのイラク報道スクープ

< - 2003年5月以降 10月まで >

・2003, 9, 29

アル・カーイダ「ムシャラフ打倒を」...アル・アラビアTV放映

アラブ首長国連邦(UAE)の衛星テレビ「アル・アラビヤ」は28日、国際テロ組織「アル・カーイダ」のナンバー2、アイマン・ザワヒリとされる男性が、パキスタンのイスラム教徒に対しムシャラフ同国大統領の打倒を呼びかけた録音テープを放映した。

ザワヒリとされる男性は「米国が、アフガニスタンのイスラム首長国(タリバン政権)を倒すのを可能にしたのは、ムシャラフである」と呼びかけた。同テレビは、テープの入手先や時期については明らかになった。

・2003, 9, 26

テロあおる報道は規制、アルジャジーラなど2衛星に、イラク統治評議会

イラク統治評議会のイヤド・アラウィ議長代行は24日の定例記者会見で、「テロをあおった」としてカタールのアルジャジーラなど二つの衛星テレビ局の会見取材を一時

禁止したことについて「我々に反対するメディアは止める」と述べ、他社についても規制する意向を示した。会見では、主に西側の記者から「報道の自由」に関する質問が相次いだ。

会見で同代行らは「報道は自由だが、あおってはいけない」と繰り返した。反米感情が高まっているイラク北中部地域「スンニ派トライアングル」について、「スンニ派とシーア派の対立をあおるメディアのでっちあげだ。暴力や差別、憎しみをあおるメディアは容認できない」と述べると、西側の記者から「大半がすでに報道している」との声も。

処分を受けた 2 局については「評議会メンバーは死ぬと話す人々を繰り返し放送した。爆発現場にも何度も居合わせており、偶然とは思えない」と激しく非難。銃撃された評議会メンバーのアキラ・ハシムさんについても「報道のせいで撃たれた」と述べた。アルジャジーラは同日、「評議会の決定は報道の自由を侵すものだ。イラクで報道を続ける」などとする声明を出した。

・2003, 9, 25

バグダッドのホテルで爆破テロ、米メディアが標的か

バグダッド中心部にある「アイケ・ホテル」前の歩道で 25 日朝、大きな爆発があり、ホテルの職員 1 人が死亡した。このホテルを拠点とする米ネット局 NBC のジャーナリストが標的になった可能性があり、NBC の技術者 1 人も軽傷を負った。反米勢力によるとみられるテロは一段と広がりを見せている。

イラクの警察幹部の 1 人は「外国人ジャーナリストに対する初めての爆弾攻撃だ」と指摘した。衝撃で割れた窓ガラスで、けがをした人もいるもようだ。

イラク北部のモスルでは 25 日、米軍の車列を狙った爆破テロがあり、複数の目撃者によると米兵 4 人が負傷した。米軍当局はバグダッド北方のバラドで 24 日に起きた交通事故で、米兵 1 人が死亡、2 人が負傷したことも明らかにした。

・2003, 9, 23

アルジャジーラ記者の拘束頻発 イラク米軍の嫌がらせとの見方も

欧米とは一線を画したアラブの視点から報道を続け、イラク戦争中も米政府をいら立たせてきたカタールの衛星テレビ、アルジャジーラの記者が、イラク国内の取材で米軍に拘束されるケースが頻発している。同テレビのバグダッド支局によると、拘束事件は 1, 2 週間に一度の割合で起こっている。

「正当なジャーナリズム活動に対する妨害だ」と記者らは怒りをあらわにするが、駐留米軍の報道担当将校は「ビリビリした状況下の兵士が、時として指示に従わない人々を拘束することばあり得る。苦情の受付窓口も設けている」と述べるにとどまって

いる。

バグダッド西郊ラマディで8月29日、爆発を聞き付けて現場に近づこうとしたアルジャジーラの記者らを米兵が制止。記者らはこれに従い引き揚げたが、目撃者にインタビューしようとしたプロデューサーと技術スタッフの2人が拘束された。

同テレビ・バグダッド支局のプロデューサー、メイ・ウエルシュ氏は「ロイターなど他のメディアも同じ場所において、同じ取材をしていた」と話し、アルジャジーラを狙い撃ちにした嫌がらせとの見方を示した。

銃口を突き付けられ、罵詈雑言を浴びせられることも日常茶飯事という。今月11日には同支局の記者一人とカメラマン1人が、米軍に一時拘束された。バグダッド西部の橋の上で10日、爆発が起こり、米軍は現場取材をした2人を、事件に絡んで拘束した。

イラク人地元記者は「旧フセイン政権下の情報機関職員の多くが体制崩壊後、アルジャジーラに転職したのは公然の秘密。一部は今も情報収集活動をしている」と指摘。真偽はともかく、独自の視点で内外から注目されている同テレビが、米軍にとって煙むたいいたい存在なのは確かだ。

・2003, 9, 23

イラク統治評議会、アルジャジーラなど閉鎖へ

イラクの政治勢力で構成する統治評議会は23日、カタールの「アルジャジーラ」とアラブ首長国連邦の「アルアラビア」の両衛星テレビ局に対して、記者会見の取材や省庁への立ち入りなどを一時禁止する声明を発表した。

声明によると、禁じるのは統治評議会の活動と記者会見の取材、暫定省庁を含む役所への立ち入りで、期間は23日から2週間。「両局の姿勢を監視する。評議会には追加措置を取る権利がある」としている。

23日付のアラブ圏有力紙「アルハヤト」によると、評議会メンバーからは「フセイン元大統領や支持者のメッセージを放送して宣伝し、統治評議会への反発をあおっている。閉鎖させるべきだ」との声も出たという。

・2003.9.18

スペイン判事、ビンラディン氏ら35人の逮捕を要請

スペインの判事は、2001年9月11日の対米同時テロを含む一連のアルカイダの犯行に対し、指導者ウサマゼンラディン氏と、カタールの衛星放送局アルジャジーラの記者一人を含む35人を、正式に有罪と判断した。

バルタザール・ガルソン全国管区裁判所予審判事は、スペインのアルカイダ拠点を捜

査した結果、米同時テロの計画が一部同国で練られたことを示す根拠が見つかった、として、国際刑事警察機構(インターポール)に対し、ビンラディン氏の逮捕とスペインへの身柄の引き渡しを要請した。同判事は、膨大な電話盗聴資料を詳細に分析し、33人をアルカイダ所属の罪で、また2人をアルカイダに協力した罪で有罪と判断した。

・2003.9、17

フセイン氏?の音声テープ放送アラブの衛星テレビ

アラブ首長国連邦の衛星テレビ、アルアラビアは17日、イラクのフセイン元大統領とされる人物が米軍への攻撃を強化するよう呼びかける音声テープを放送した。テープの中でこの人物はイラク人に向け、「愚かな侵略者に対し、あらゆる手段を使って戦を挑め」と主張。米軍に対しては「遅かれ早かれ、イラクからの撤退は不可避だ」などと語った。同テレビによると、このテープはバグダッドで入手、上部には「9月中旬」と書かれていたという。

・2003、9、13

カダフィ大佐の息子がペルージャと契約、アルジャジーラ放送

リビアの最高指導者カダフィ大佐の息子アルサアディ・カダフィが、サッカーのイタリア1部リーグ(セリエA)でデビューする可能性が出てきた。

リビアリーグの強豪アル・イティハドに所属していたカダフィは6月末、ペルージャと契約。事務手続きの理由で遅れていた連盟の移籍承認がこのほど正式に下りた。同選手は強豪ユベントスの株式を取得するなど大のサッカー好き。今回のペルージャ挑戦も“道楽”との見方もあった。しかし、夏の練習試合でも2ゴールを決めるなど、母国の代表主将も務めるサッカーの技術も確かなようだ。

特別扱いを嫌い、これまでメディアとは一切接触しなかったが、カタールの衛星テレビ、アルジャジーラがインタビューに成功。「チームのみんなも街の人もととても温かく、ペルージャを気に入っている」と話した。

・2003.9.12

容疑者の男の生前ビデオ放映 アルジャジーラ

カタールの衛星テレビ「アルジャジーラ」は12日、01年9月の米同時多発テロで死亡した男が生前に米国と戦う決意を語ったものとするビデオ映像を放映した。

男は米ペンシルベニア州で墜落したユナイテッド航空93便を乗っ取ったとされるサ

イード・アルガムディ容疑者とみられる。映像は 00 年 12 月収録とされ、男は「米国と戦うのはイスラム教徒としての義務だ。アラブ諸国は聖戦を通じてでなければ救われない」と語っている。同テレビは 10 日には、国際テロ組織アルカイダの指導者ウサマ・ビンラディン氏とみられる人物の新たなビデオ映像と音声テープを流していた。

・2003.09.11

ビンラディン氏:新たなビデオ映像と音声テープ流れる

カタールの衛星テレビ「アルジャジーラ」は 10 日、国際テロ組織アルカイダの指導者ウサマ・ビンラディン氏と側近のザワヒリ副官とみられる人物の新たなビデオ映像と音声テープを流した。ザワヒリ氏とみられる人物はさらなる対米テロ攻撃を呼びかけた。

ビンラディン氏の映像が流れるのは昨年 4 月以来、約 1 年半ぶり。アルジャジーラは、今回の映像は今年 4 月後半から 5 月前半にかけて撮影されたと伝えた。場所は明らかにしていないが、険しい山岳地帯の急斜面を 2 人がつえをつきながら歩く姿が映し出され、アフガニスタンとパキスタンの国境付近との見方が出ている。

ビンラディン氏とみられる音声テープは 8 分で、同時多発テロが米国に大打撃を与えたと実行犯 5 人の名前を挙げて称賛した。

ザワヒリ氏とみられる人物は「米国はアフガニスタンとイラクの痛手で動揺している。これまでのアルカイダによる攻撃はまだ小競り合いにすぎない」とさらなるテロ攻撃を警告。イラク人には「ライオンのように米国人にむさぼりつき、イラクの墓に埋めろ」、パレスチナ人には「パレスチナ解放のためには聖戦しかない。武器を捨てず、イスラエルに抵抗しろ」などと呼びかけた。

・2003.09.05

アルカイダ:関与のアルジャジーラ記者を逮捕 スペイン警察

スペイン警察当局は 5 日、カタールの衛星テレビ放送局アルジャジーラのタイシール・アロウニ記者をウサマ・ビンラディン氏のテロ組織アルカイダの活動に関与した容疑で、スペイン南部グラナダ地方の自宅で逮捕した。同記者は一昨年 11 月の米軍によるアフガニスタン攻撃の報道で名をはせた同局のスター記者。

同記者のファティマ・ハメド・ラヤジ夫人が米 CNN テレビに語ったところによると、アルカイダの重要メンバーと関係を持ち、米同時多発テロ後の一昨年 10 月にジャーナリストの立場を利用しビンラディン氏にインタビューしたことが逮捕容疑。

スペイン当局はこのほかアロウニ記者が(1)一昨年 11 月にスペインで摘発されたアルカイダ系原理主義グループの組織作り、支援に参加した(2)欧州のアルカイダ・メ

ンバーに指導部の極秘メッセージを伝達した(3)カブール特派員時代にアフガニスタンのアルカイダに資金を供給した去碑などの疑いを持っているという。

ハメド・ラヤジ夫人は一連の容疑を「真実ではない」と否認。アルジャジーラ本社の広報官は「ジャーナリスト、特にアルジャーラの記者に対する嫌がらせだ」と逮捕を非難している。

・2003.09.03

アルジャジーラ放送のフセイン元大統領声は本人 CIA 分析

カタールの衛星テレビ、アルジャジーラが1日に放送したイラクのフセイン元大統領とされる人物の声について、米中央情報局(CIA)は3日、分析の結果「おそらく元大統領の声」との結論を出した。放送されたフセイン元大統領とされる声は、イラクのナジャフでイスラム革命最高評議会の最高指導者ムハマド・バキル・ハキム師らが殺害された、8月29日の爆弾テロ事件への関与を否定していた。

・2003.9.1

フセイン元大統領、爆弾テロ関与を否定

カタールの衛星テレビ局アルジャジーラは1日、イラクのフセイン元大統領とみられる音声テープを放送した。音声は、8月29日のイスラム教シーア派聖地ナジャフでの爆弾テロについて「信仰心のない侵略者たちは証拠もなしにサダム・フセイン支持者の責任を指摘している」などと述べ、関与を否定した。

同様に放送された過去のテープでは米国など占領軍への抵抗を呼びかけたが、自分と同じイラク人は殺害しない立場を強調したとみられる。

イラク駐留米軍は8月31日、北部モスルに元大統領が潜んでいるとの情報を基に大規模な搜索活動を実施したが、発見できなかったもよう。音声の本物であれば、現在も元大統領が生存しているとの説を裏付けることになる。

・2003.08.02

フセイン元大統領の娘2人が米TVなどに登場

フセイン元イラク大統領の娘2人のインタビューが1日、米CNNテレビアラブ首長国連邦の衛星テレビ「アルアラビア」などで放映された。2人がメディアに登場したのはイラク戦争開戦後初めて。

元大統領の長女ラガドさん(36)と二女ラナさん(34)は滞在中のヨルダンの宮殿で、CNNとアラブ首長国連邦の衛星テレビ「アルアラビア」のインタビューに応じた。2人はいずれも黒いドレスを着て、白いベールで髪を覆っていた。

CNNとのインタビューで、2人は「最後に元大統領と話したのは開戦(現地時間3月20日)の7日前だった」と語った。ラガドさんによると、2人は計9人の子供とともに、元大統領の手配した車両で郊外の建物に逃げた。「何度か砲弾が近くに落ち、建物が揺れた」という。ラガドさんは4月9日のバクダッド陥落が「大きなショックだった」と振り返った。元大統領について、ラガドさんは「非常によい父親で、大きな心を持ち、娘や息子、孫を愛していた」と称えた。ラナさんも「私は父が無事にいるよう神に祈っている」と述べた。

・2003.7.30

CIAがフセイン氏の声と断定、TVの録音テープ関連情報

米中央情報局(CIA)当局者は30日、アラブ首長国連邦の衛星テレビ、アルアラビヤが29日伝えたイラクのフセイン元大統領とされる人物の録音テープについて「フセイン元大統領本人の可能性が極めて高いと断定した」と述べた。

アルアラビヤは29日、フセイン氏とみられる人物が読み上げる声明の録音を放送。声明は長男ウダイ氏と二男クサイ氏の死を悼んだ上、「ジハード(聖戦)の戦場で勇敢に戦った」と指摘。

・2003.3.25

アルジャジーラの取材禁止 NY証取、保安上の理由で

ニューヨーク証券取引所は24日、カタールの衛星テレビ、アルジャジーラの立会場への立ち入りを禁止した。アルジャジーラは同取引所からの報道を日常的に行っていた。

証取所関係者は、保安上の理由によると説明、立会場への立ち入りは「信頼できる」メディアに限定していると述べた。

アルジャジーラは米国の武力行使を批判するアラブ諸国の声を重点的に報じており、今回の措置について、同テレビ側は「イラク戦の報道が理由だ」と反発している。